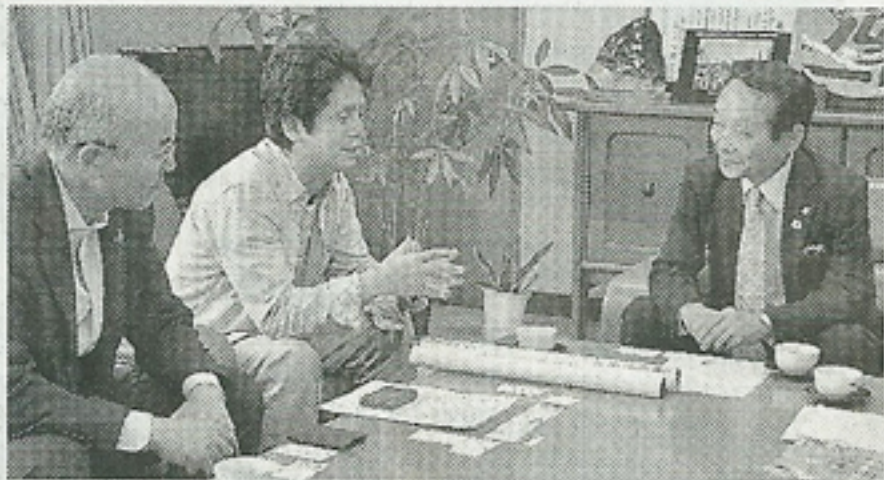


# 「池島譚歌」応援して

## 田川市長を荻野監督訪問

九州最後の炭鉱として2001年に閉山した長崎市の池島を舞台にした映画「池島譚歌」の6月公開を



伊藤市長(右)と談笑する荻野監督(中)＝田川市役所

前に、荻野欣士郎監督らが31日、田川市の伊藤信勝市長を表敬訪問した。同じ旧産炭地でもあり、交流がある田川市へPRなどの協力をお願いで訪れた。

映画は家族のつながりを描く物語。かつて日本の近代化を支えた石炭産業の地、池島で昨夏に1カ月余のロケをし、地元の小中学生7人をはじめ、島内の人たち約50人もエキストラとして出演している。

ラストシーンでは、全長1キロという異例のレール移動撮影に挑んだ。撮影用の5000円と手作りの2000円しかない、足りない分は後ろのレールを前につなぎ

あわせながら撮影した。

「キロ」を漢字にあてはめると、「帰路」であり、「岐路」でもある。映画のテーマでもある家族の姿と重なることから荻野監督がこだわったという。従来のギネスの世界記録の3000円を大幅に塗り替えた。

荻野監督には以前、東京電力の原発のPR映画を撮った経験がある。福島第一原発事故が起き、原発の安全をうたったことを後悔したという。「エネルギー革命からもう一度考えよう」として池島に行き着いた。

「池島で家族を追っていたら、エネルギー革命を忘れてしまった」と荻野監督。それほどすばらしさが池島にはあったという。

映画は1日公開の長崎市に続き、15日から中間市のユナイテッド・シネマなか

ま16などで上映予定で、九州での料金は千円になる。

(大矢雅弘)